

広報 はむら

2月1日号
平成31(2019)年

市役所1階に
バックボードを設置！
撮影した写真は、SNSな
どで「#愛情はむら」を
つけて発信してりん♪

HAMURA CITY

広報 はむら 平成31年2月1日号

平成31(2019)年2月1日発行 第990号
【発行】羽村市 【編集】羽村市広報広聴課

URL = <http://www.city.hamura.tokyo.jp> ☎042-555-1111 ☎337 FAX 042-554-2921

2019 0201

愛情ギュッとず〜っとはむら

バックボードデザイン
SANA さん(羽村市出身アーティスト)



広報はむらは再生紙を使用しています

公式PRサイト ウェブマガジン「はむらぐらし」編集後記 ～水をテーマに記事を書いて～

「自分が住んだまちだからこそ、その魅力を知りたい！」そのような思いから始めた羽村市魅力発信市民記者。そんな私は、もともとは千葉県南端の出身で、大学で上京、気が付いたら西へ西へと流れ、まったく縁もゆかりもない羽村に住んだ人間です。「そんな新参者に羽村の魅力なんぞ発信できるか！」という声も聞こえてきそうですが、そこはぜひご愛嬌で！まずは、記事を読んでいただけたらと思います。



▲水道事務所での取材の様子

さて、羽村と言え
ば「水」。私はこれ
まで「水」をテーマ
に「ひねるとおおい
い羽村の水！その秘
密とは」と「羽村市
にも温泉があった!？」
『フレッシュランド西多摩』はみんなの願いが
つまった『憩いの施設』だった」の2本の記
事を書きました。その中で特に印象深かった
のは羽村市の水道の歴史です。市が独自水
道を維持し、私たち市民が「安心・安定・安
い」水を当たり前のように飲んでいるのは、
先人の苦勞や決断があつてのこと。改めて
「当たり前の生活の奥」に感謝をしなければ
と強く感じました。こうい

羽村市は、さまざまな魅力にあふれていて、暮らしやすさや子育てのしやすさにつながっています。この魅力を大勢の方に知っていただくため、シティプロモーションの取組みの一つとして、市民が「羽村市魅力発信市民記者」となり、取材して書いた記事をウェブマガジン「はむらぐらし」に掲載し、発信しています。



▲市民記者「きのびー」こと木下智実さん

た「事実」と出会えるのもこの活動の良さだと感じています。

また、この活動の良さを一言で言うと「仲間とみんなで成長できる場」。普通に仕事をしていただけでは絶対に出会えなかった仲間と活発に対話し

ながら記事の校正やイベントの企画を行い、洗練されたモノを創り上げていく。その過程が本当に楽しく、充実した時間になっています。今後も、市民の方が「お！」と思う記事、「なんかいいね！」というイベントを創っていきます。ぜひ、そんな市民記者を応援してください。私たちは子育て世代を中心としたメンバーで活動していますので、関心のある方は、シティプロモーション推進課へ問い合わせてください。

※羽村市魅力発信市民記者の記事は、市公式PRサイトの「はむらぐらし」で読むことができます。羽村市の魅力を再発見することができます。



愛情はむら

問合せ シティプロモーション推進課 ☎399



収藏品ファイル

その70

シリーズ いれもの⑳
くすり ばこ箱
「薬箱」

富山県の薬売りによる置き薬の箱です。中には家庭常備薬が入っています。この薬箱と薬のセットを最初は無料で受け取り、年に2回ほど販売員が巡回に来たときに使った分だけ代金を払い、新たに薬を補充してもらいました。

富山の薬売りは全国各地に得意先を持ち、羽村にも何件かの売薬業者が来ていたようです。写真の薬箱は昭和15年～40年ごろのものと思われます。

問合せ 郷土博物館 ☎558-2561



▲箱の側面に「手早き手当は万金の治療にまさる」と標語がある

市公式サイト



市公式PRサイト



Twitter



Facebook



YouTube

